

第 415 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 7 年 10 月 7 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX GOOD-TIE! (月・火)
[放送日時] 令和 7 年 9 月 15 日 (木) 11:30～14:55
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 加藤裕治 委員 小野晃司
委員 土屋維子 (5 委員 / 6 委員)
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明
編成制作部主任 久保田琢広

5. 事務局報告 ○ K-MIX の 2025 年上期の収支と下期の見通しについて
6. 番組審議

[番組名] K-MIX GOOD-TIE! (月・火)
[放送日時] 令和 7 年 9 月 15 日 (月) 11:30～14:55
[出演者] 杉岡沙絵子
[番組内容] 聴けば静岡の今とつながる。
時間毎、聴取者や、ある道の専門家、人気店の店主、
番組スポンサー…といった、様々な人々と番組をリアル
につないで、メッセージを通して、番組と聴取者、
そして、聴取者同士をつないで、”静岡の今”を
つないで行きます。

[聴取・合評での主な意見]

土屋委員

お昼の時間帯の生ワイドは、さらりと何かをしながら聴き流すことができる
番組で良いと思うし、この番組は、その要素があつて、これで良いと思う。
現在放送されている内容で、これからも進めた方が、聴く側も負担なく聴き
続けられる。ゲストに食品の専門家の先生が出てこられたが、先生の知識を
うまく引き出せない部分もあり、時間が長く感じられた。

杉岡さんも管理栄養士の資格をお持ちなので、質問等で
食品の魅力をもっと伝えられたと思うので、少し残念だった。

小野委員

番組内で何を語るかと番組内で誰が語るかで、印象は変わるが、今回の試聴では、後者がやや強く、内容の伝わり方がやや薄く感じられた。テレビとは違って、ラジオは、見るができない情報も音で伝えなければいけないという事情がある。そのためには、「どの位」「どのような」といった「形容詞」や「副詞」を表現に散りばめて行くと良いと感じた。番組は、全体的にはまとまっていて、聴きやすい構成になっていると思う。

加藤委員

一般的には、番組は消費者に訴える作りが多いと思うが、この番組は、生産者を探る観点での構成も見られる。また、杉岡さんはどういう特徴をもって番組を進めて行くのかのトークの「核」がなかなか見えない。しかし、現在は、「核」を持っていない、あるいは、見せないパーソナリティもたくさんいるので、その辺は問題ないと思う。そして、番組には聴き手の好みというものが必ず存在するので、こういうタイプの番組があっても良いと思う。番組開始から2年半ほどで、番組のファンもついているようであり、世の中の多様性の観点からも十分にその存在が理解できる。どのように生産者の話を聴かせて行くのかといった、番組の持ち味を活かす方向を探ることも必要ではないだろうか。

角田委員

杉岡さんのパーソナリティとしてのトークが薄味なので、番組の時間としては、少し長いのではないかと感じる。インタビューの時も予定通りに番組を進行しようという気持ちが少し強いのか、話題を深めるよりも次々と質問を続ける進行であるために、聴き手の側に絵が浮かんでこない。出演するゲストやその話題に対して、もう少し、事前準備をしっかりと試みてはどうか。一方で、番組開始からすでに2年を越え、ナレーションと番組への余裕が出てきたため、最初に聴かせていただいた杉岡さん像とは、良い意味で違うイメージが湧いてきていることは評価できる。

木宮委員長

番組のイメージは2年半前に聴いた初期の雰囲気と変わらない。杉岡さんのキャラクターが薄味であるためと考えるが、今は、このままで番組を進めて行っても良いのではないかとも思う。杉岡さんに違う時間帯の番組を担当してもらおうと、また別な個性も出てくる可能性はある。

ゲストインタビューのコーナーは、今回ZOOMでの進行だった。この進行スタイルは、とても難しく、どうしても、それぞれの言葉が一方的になり、その繰り返しになることもやむを得ない状況なので、トーク力だけが問われることは少し厳しすぎると思う。今後、K-MIXとして、このタイプの番組をどのようにして行きたいのかを考えるポイントを与えてくれていると思われる。

会社サイド

この番組は開始から2年半、杉岡さんは番組スタートを機にキャスティングされ、それまでのテレビのアナウンサーからラジオパーソナリティとフィールドが変わり放送を続けてきました。現在、K-MIXのワイド番組、パーソナリティとしてだいぶ認知されてきたと考えます。K-MIXのワイド番組においては、パーソナリティの個性を引き出し、個性を生かすことに力を入れています。その個性がどうすればリスナーに好意的に受け入れられるのか、パーソナリティと制作者が常に考えていかなければならないことだと思っています。

以上

次回開催日 令和7年11月4日(火) 11:00～13:00を予定

番組審議会委員長

木 宮 敬 信